

## 第 2 回 SC 委員長会議報告

日 時： 2000 年 7 月 17 日（月）13:00～17:00

場 所： 電気学会会議室

出席者： 各 SC 委員長・幹事，SC 委員長の指名した専門家，  
CIGRE 最優秀日本論文著者，JNC 委員長，副委員長，本部理事，幹事団

議事内容：

(1) 本部状況報告（関根本部トレジャラー，鈴木 ACOPPE 委員）

- ・シンポジウム予定：オーストラリアケアンズ「Behavior of Electricity in Tropical Countries」とブラジル「Gas and Electricity Network」。2003 年は「Requirement Engineering」「Asset Management」が予定。
- ・ACCOPE 報告：Short Summary を Web に載せる。6 ページの Technical Summary は全員に配布。6 ページ以上の Full Paper はリクエストにより配布する。Editorial Committee を組織する。

(2) 各 SC 委員長からの報告と質疑

15 の SC 委員長から下記の点を中心に報告あり。

- ・各 SC 活動状況・予定（特にパリ大会に向けて）
- ・今後の SC/WG/TF 会議日本開催の可能性，同メンバの日本からの選出状況見通し
- ・SC 活動上の問題点・課題，他 SC や JNC への要望事項，その他

(3) 第 1 回 AORC（アジアオセアニア地域会議）の報告と今後の進め方討議

各 SC 委員長から AORC の進め方について意見交換した。主な意見を下記に述べる。

SC11：「老朽化」などについて，メール等で問い合わせあってもかまわない。

SC12：規格化についてもアンケート出したい。

SC13：アジアではオーストラリアが活発，系統問題に絡めた話題にするべき。

SC14：系統連系についてもヨーロッパの技術の押し付けの感あり。東南アジアやニュージーランド，オーストラリアでは事情が違う。

SC15：CIGRE とは別に，パンパシフィックで既にいろいろ活動している。

SC21：アジア・オセアニアに対する指導力をキープするべき。

SC22：SC 会議は 1997 年と 1999 年にアジアで開催した。次は他の地域と思われる。

SC23：変電所の保守などでフォーラムなどを開催したい。2002 年日本開催で構わないと思われる。

SC33：高電圧，放電現象などについて日本，中国，韓国で交流している。

SC34：韓国で PCM キャリアリレー導入の必要性が出ている。マレーシアは安定度問題で苦しんでいる。これらの情報交換が必要。

SC35：電力用通信の自営網が国々で異なり，共通の話題にし難い。

SC36：韓国や中国は現在研究段階であり，知的所有権などを守らせることが大事。

SC37：電力需要の伸びは期待できる。個別案件対応のきらいがあるが，自由化については意見交換できる。

SC38：解析手法や規制緩和についてアジア・オセアニアで調査できる。

SC39：韓国との交流やり易い。情報ネットワーク化，Web 化を考えている。

委員長：1)テーマ重点化，2)窓口は各 SC 委員長にお願いしたい。知的所有権などの守秘義務を明確にする，3)各 SC の主な課題を上げていただきたい。4)日本開催は費用面倒みる。言語も日本語とする。逆ならばその国の言語にするべき。

幹 事：当面の AORC の TM (Technical Meeting) は，アジア・オセアニア地域から比較的多くの SC 委員が出ている系統関係 (SC37, SC38, SC39) 中心に進めることで，各国と調整する予定である。

(4) 2000 年第 38 回パリ大会案内について

- ・会場が改造されている。部屋番号など例年と変わっているので注意。
- ・CD-ROM の中身が違っているものがある。写真ぬけ等。印刷物を正としてください。
- ・日本からの参加者は今日時点では 93 名。

(5) CIGRE 最優秀日本論文選考結果報告

最優秀論文として，河村，河野，佐々木，財満，植田，加藤著「Principles and recent practices of insulation coordination in Japan」が選出された旨の報告あり。

懇 親 会： アルカディア市ヶ谷にて，17:30 から 19:00 まで実施した。

以 上